

説明医師

説明看護師(外来)

看護師(病棟)

様へ

月日	月 日	月 日	月 日
経過	入院日	当日術前	当日術後
目標	○心身ともに安定した状態で手術を受けられる ○治療に対する不安を表出できる		○術後合併症を起こさない(出血、深部静脈血栓症、肺炎、縫合不全、感染、腸閉塞) ○合併症予防のためリハビリ(歩行訓練、呼吸訓練)がおこなえる
査検	身長、体重測定 採血	体重測定	採血 レントゲン撮影
食事	夕食後絶食、21 時以後絶飲食 経口補水液は、麻酔科の指示で服用		絶飲食
	朝食は 自宅で		
処置・観察	リストバンドを装着します(退院日まで) 弾性ストッキングのサイズを測定し、お渡しします 臍処置します(シャワー前) 必要時、糖尿病・内分泌科の診察があります	時間になれば、看護師が手術室にご案内します	手術後以下の挿入物、装着物があります ・酸素マスク → 取り外します ・心電図モニター → 取り外します ・点滴の管 → ・背中のチューブ(鎮痛剤) → ・創部の管(ドレーン) → ・尿道カテーテル → ・フットポンプ(血栓予防) → 取り外します 創部を観察、処置を行います
	状況に合わせて、体温・脈拍・血圧・酸素飽和度を測ります		
点滴・内服	持参薬、お薬手帳を看護師にお渡しください 以下を服用します ・昼 500ml の下剤 ・眠前 下剤	手術室で点滴を開始します(手術が午後の場合、病棟で点滴を開始します)	以下の点滴を行います ・持続点滴 → ・抗菌薬 → ・鎮痛剤 → ・胃薬 → ・肝保護剤 →
	シャワー浴または清拭を行います 	以下の手術準備をします ・手術着に着替え ・弾性ストッキング装着 ・入れ歯、アクセサリ、時計等の取り外し	術後、集中治療室にベッドで入室します
行動・リハビリ	制限ありません		翌朝までベッド上安静です
	付き添いのもと、リハビリを開始します		
説明	医師・麻酔科医より(外来又は入院時) ・治療計画について ・手術について ・麻酔について	医師より ・手術結果について	
	病棟・手術室・集中治療室看護師より ・入院生活について(パスシートを使用) ・手術について ・集中治療室について	看護師より ・術後の注意点について ・安静について ・下肢運動について ・痛み止めの使用方法について	
	薬剤師より ・持参薬確認 ・使用薬剤について		

* 入院に際して、この用紙を必ずお持ちください

* 入院時に栄養状態を評価して栄養管理計画を立てます。定期的に栄養状態の再評価を行い計画を見直します。

* この表はおよその経過をお知らせしたものです。種々の都合により、予定通りではないこともあります。

月日	月 日	月 日	月 日	月 日～ 月 日
経過	術後 2 日目	術後 3 日目	術後 4 日目	術後 5～10 日目 (退院)
目標	○術後合併症を起こさない (出血、深部静脈血栓症、肺炎、縫合不全、感染、腸閉塞) ○合併症予防のためリハビリ (歩行訓練、呼吸訓練) がおこなえる			
検査	3 日目・5 日目・必要時 採血 レントゲン撮影 体重測定 			
食事	2 日目 朝より五分粥食	3 日目 朝より全粥食	4 日目 朝より常食	退院日は、朝食のみ
	  	  	  	  
処置・観察	以下の挿入物があります ・点滴の管 → 点滴が不要となれば抜去します ・背中のチューブ (鎮痛剤) → 術後 2～3 日で抜去します ・創部の管 (ドレーン) → 術後 4 日程度で抜去します ・尿道カテーテル → 術後 2～3 日で抜去します  創部を観察、処置を行います 			退院時にリストバンドを外します
	 状況に合わせて、体温・脈拍・血圧・酸素飽和度を測ります			
点滴・内服	 以下の点滴を行います ・持続点滴  点滴  ・鎮痛剤 	 以下を内服します ・鎮痛剤  ・胃薬 		
	 状況に合わせて、全身清拭、洗髪、足浴を行います  尿道カテーテル抜去後はトイレで排尿できます	 創部の治癒状況に合わせてシャワー浴を再開します (週 3 回、病棟毎で日が異なります)		
リハビリ	 リハビリを継続します			 (退院日) 朝食後退院です
説明				 医師より ・退院後の治療計画、療養上の留意点について  看護師より ・退院後の療法生活について (退院療養計画書をお渡しします)

